

金沢大学英文学会

The Society of English Literature, Kanazawa University

NO.2

NewsLetter

2010.11.01

★会員のみなさま、お変わりございませんか。金沢大学英文学会では、今年も **News Letter** を発行することになりました。創刊の第2号をお送りします。さる8月7日に、本年度の運営委員会が開かれました。この号は、そこで討議された内容をもとに編集されています。

=====

パントマイムの力

中村 芳久

今年の金沢大学英文学会のハイライトの一つは、ノーベル賞授賞式にふるまわれるスウェーデン王室ご用達のティーを皆さんにもおふるまいするという事かもしれません。12月10日の授賞式にさきがけてのふるまいですが、ノーベル賞受賞者の気分をお味わってください。金沢の茶房のご協力によるものですが、特別におわけすることもできるようです。

さてパントマイムと言え、強風の中、吹き飛ばされそうになりながら、なんとか前に進もうとする男のパントマイム、そんなパントマイムを見た覚えはありませんか。そのパントマイム、どうやらヒトだけができる芸当らしいのです。虎の威をかる狐などと言いますが、トラやライオンのまねをする狐や犬など見たことはありません。ヒトだったら、小さな子どもでもじょうずに象の歩き方や虎のほえ声をまねますから、たしかにパントマイムを自由にこなせるのはヒトだけかもしれません。

パントマイムのコツは、対象の特徴を

切りとって、うまく身に纏うということでしょうか。そうするとより一般的には、対象や場面から特徴を切り出して、別のものにくっつける・結びつける、というような技は、人間だけのものかもしれません。さしずめケンタウロスは、ウマの身体能力とヒトの知性の結合でしょうか。T.S.エリオットに「4月は残酷な月だ」というフレーズがありますが、「4月」に「残酷」を纏わせるのは深い洞察の極みでしょう。

もう少し単純に考えて、ワールドカップで活躍する選手の、銀盤の上で華麗に舞う真央ちゃんの、美技を身に纏おうと無心でがんばる少年・少女のように、イイ行い、すがすがしい行いの格好だけを真似て、身に纏おうとしているうちに本当にいい女、いい男になるのかもしれません。それこそ、スウェーデン王室ご用達のティーでも飲みながら、受賞者のまねごとをしているうちに、ほんとうに大学者、大文学者が生まれるのかもしれません。

ヒトは、5～6万年まえにアフリカを出て、地球のいたるところに棲むようになり、月や火星にまで足をのぼさうという勢いですが、これは<いま・ここ>という現実から脱して、夢の世界、空想の世界に身を置こうとする、もとはといえばパントマイムの力なのかもしれません。

Marc Hauser という分子生物学者は、世界一の科学雑誌 *Nature* (9, July, 2009) に、特に自由な結びつけ能力 (パントマイムの力) を人間だけの能力 (humaniqueness) として、わかりやすい英語と文体で論じています。

2010年度金沢大学英文学会

総会プログラム

日時：2010年11月20日（土）

第1部 9:30～13:20

第2部 14:00～17:30

（受付開始は9:30）

懇親会 18:00～20:00

場所：金沢市文化ホール

（第5・6会議室）

〒920-0864 金沢市高岡町15-1

(tel:076-223-1221)



総会第1部 研究発表会（9:30～13:20）

9:30～9:40 インTRODクシヨン

9:40～10:10 小林 隆（修士課程）

“On the discourse marker *I mean*”

10:10～10:40 山田正敏（修士課程）

「動能交替（Conative Alternation）に
おける認知言語学的分析」

10:40～11:10 相川隆行（修士課程）

「クマのプーさんの言語「ゲーム」」

11:10～11:40 宮田愛子（修士課程）

「E. A. Poeにおける反復と語り」

11:40～11:50 休憩

11:50～12:20 田中瑞枝（平成18年修了）

「日英語の経路表現と認知モード：
journeyを中心に」

12:20～12:50 中條純子（博士課程）

“Increasing oral production:

Improving fossilized pronunciation
for Japanese learners of English”

12:50～13:20 市川泰弘（博士課程）

“The emergence of “*get*+adjective”:
A historical and cognitive approach”

総会第2部（14:00～17:30）

14:00～14:30

開会の辞

総会 1. 会計報告

2. 会の活動報告

3. その他（山田先生へのお礼）

14:30～15:00 Speech Contest

審査員：太田伸子（石川工業高等専門学校）

長岡亜生（福井県立大学）

Peter Edwards（金沢大学）

15:00～15:10 休憩

15:10～16:30 卒業生の発表

平成21年卒の皆さん

「就活の思い出、そして就職2年目」

平成3年卒 井原明美さん

「留学のススめーエンバラの2年
間で学んだこと」

16:30～16:40 休憩

16:40～17:10 講演 太田伸子先生

（石川工業高等専門学校）

「スピーチコンテストとESL/EFL」

17:10～17:20

Speech Contest 審査報告と表彰式

17:20 閉会の辞



18:00～20:00 懇親会

会場：金沢ニューグランドホテル

〒920-8688 金沢市南町4番1号

(tel:076-233-1311)

会費：4,500円

《 会員の活躍 》

★幕末の逆輸入

1994年修了 正木恵美

数年前、大河ドラマ『新選組！』をきっかけに新選組にハマった私は、新選組に関する本を読み漁っていました。そうするうちに、アメリカ人作家が書いた英語版の新選組の本を見つけ、ぜひ翻訳してみたくなり、思い切って自費出版で翻訳書を出しました。いわば「日本の歴史の逆輸入」です。タイトルは『新選組 将軍警護の最後の武士団』で、バベルプレスから出版されています。

それから時は流れ、私の訳書に目を留めてくれたジャパンタイムズ社から声が

かかり、今度は坂本龍馬の本の仕事をする事になりました。坂本龍馬の伝記を英語で読むという、学習者向けの本です。私が担当したのは、各章の英文の後に載せる日本語訳と、英文ページに添える語句解説です。翻訳作業においては、『新選組』を翻訳した際の調べ物が大いに役立ちました。台詞については、編集者と相談した結果、方言を交えたほうが雰囲気が出るだろうということで、土佐弁と薩摩弁（あと京都弁も少し）を駆使しました。このとき、『新選組』を訳す際に『新選組！』のDVDを見て土佐弁や薩摩弁をメモしておいたものが再び役に立ちました。他には、司馬遼太郎『竜馬がゆく』の台詞も参考になりました。大変でしたが、訳していて楽しかったです。本来は英文を読むための本ではありますが、僭越ながら、日本語訳も楽しめるものになったのではないかと思います。そして、昨年末、この『英語で読む坂本龍馬』が無事に出版されました。表紙のイラストと挿絵は最近あちこちで引っ張りだこのイラストレーターの方が担当していて、見た目もカッコいい本に仕上がりに、満足しています。今年の大河ドラマ『龍馬伝』との相乗効果で、売れ行きも好調なようで、まっこと、ありがたいぜよ！

以上2点の本は、英文研究室にも置いてありますので、よろしかったら手に取ってみてください。歴史好きの私としては、次は平安時代や古代エジプトに関する翻訳にも携わってみたい、などと夢を膨らませています。

★留学のススメ

1991年卒 井原明美

数ヶ月前、最近は留学に関心を持たない学生が多いという新聞記事を読みショックを受けました。私が大学生の頃は留学を希望する学生が非常に多く、提

携大学への留学生を選考する試験は超高倍率でした。私も受けたのですが残念ながら選考にもれ、教員になってからも、「いつか留学したい」という気持ちがくすぶり続けていました。その後、文科省が「大学院修学休業制度」を設けたことで、無給ですが、教員の身分のまま最高3年まで専修免許取得目的で休職し、大学院に進学できるようになりました。制度が始まって2年後の元旦、私は留学を決意しました。出願にあたっては中村先生や堀田さんにもたいへんお世話になりました。おかげで平成15年4月1日から2年間の休職が認められ、平成15年4月4日、エディンバラでの私の2年間の留学生活がスタートしました。

修士課程は1年間でしたが2年間休職し、前後の期間を研修等に充てました。エディンバラ大学教育学部 TESOL コース修士課程は4期制で、Term 1 (Oct - Dec) は4つの必修モジュール、Term 2 (Jan - Mar) と Term 3 (Apr - Jun) はそれぞれ3つのモジュールを選択し、Term 4 (Jul - Sep) は、修士論文(15,000 - 20,000 words) です。学生も教授も世界各国から集まっています、World Englishes を実感できる場でもありましたが、最初の頃は教授の強いスコットランド訛りに困惑することも度々でした。イギリスの大学・大学院の特徴は Tutorial という教授と学生の1対1の対話による学びの機会があることです。講義はディスカッションやプレゼンテーションが中心で、個々の学生に割り当てられる Tutorial の時間には、レポートやプレゼンテーションの内容について教授と話します。どの講義でも、参考文献リストにある大量の文献の内容を知っておくことが前提で、講義では専ら意見が求められます。意地悪い質問で学生をやりこめる教授もいて、プレゼンや Tutorial がある日は非常に緊張しましたが、先生方と落ち着いて話せる Tutorial は楽しい時間でもありました。

講義では毎回課題が出され、学期末には、モジュール毎にレポート（5,000-6,000 words）が課されます。1つでも単位を落とすと次の学期に進めないのが必死でした。何とか全単位取得し、修士論文も認められて修士号を取得することができました。翌年1月に行われた修了式。非常にイギリス的な歴史を感じさせる式典でした。2年間、憧れの留学生生活を大好きな街エディンバラで送ったことは今も私の宝で、教員生活の大きな原動力になっています。教員生活の途中で少し立ち止まり、英語教師であることを再認識する機会にもなりました。また、言語や文化の異なる人々との生活体験から、様々な価値観があることを肌で感じ、自分自身や母国を客観的に見ることもできました。異なる文化・環境に身を置きそれまで当たり前だったことを見直してみることは非常に有益だと思います。教え子達には留学に限らずぜひ一度外に出て見聞を広めて欲しいと思っています。

《 英文科の思い出、近況 》

★文学部を卒業してよかった！

1980年卒 田中 渡

現在女子校で英語を教えています。4年ほど前から往復1時間の電車の中で英米文学作品の原書講読にはまっています。卒論のHardyに始まり、生徒が喜ぶ教材を読みあさっています。今まで読んで教科通信に載せ、生徒に読み聞かせてきたのは次のような作品です。Hardyの*Two on a Tower*, *Desperate Remedies*等、「赤毛のアン」「ロミオとジュリエット」「若草物語」「小公女」「嵐が丘」等。さらに「英詩」も沢山読み聞かせてきました。私の原書と英詩の朗読（英日対訳）に生徒は聞き耳を立てます。「楽しい原書講読」が「楽しい授業」の教材に結びつき、生徒と共に「楽しいひととき」が過ごせます。文学のすばらしさ

にも改めて気づきました。「文学」＝「いかに生きるかの教材」だと思います。英文科を卒業した私は生涯幸せです。「文学を楽しむ」「仕事を楽しむ」「人生を楽しむ」ことができるからです。この素地は金沢大学の英文科が与えてくれました。

★英語の話ではないのですが・・・

1989年卒 小池匡弥

現在私は、岐阜県の公立高校で英語の教員として勤めております。英語の話ではないのですが、バスケットボール部の顧問を担当する傍ら、審判員としても活動しています。

私がやっている審判は3種類です。

1つは脊椎損傷の障がい者がプレーする車イスバスケット。

2つ目は頸椎損傷の人のための車イスツインバスケット。

そして健常者のバスケットです。

ルールはそれぞれ違いがありますが、バスケットである点は同じです。

スポーツの楽しみ方は、自分がプレーする、観戦する、この2つが主なものですが、審判として同じコートに立つのも楽しいものです。

バスケットの審判の最大の魅力は、次々と展開するプレーの中で、反則として取り上げるものと取り上げないものを瞬間的に判定する緊張感です。

★大学の思い出

1997年卒 友田里美

1997年大学卒業後、地元の化学メーカーに就職し、早13年。人事、秘書、海外事業部を経験後、現在は経営企画という役割を担っている。アパレル・自動車・化粧品等に使われる製品を国内外に展開している会社で、大変だが楽しい日々を過ごしている。最近はゴルフで真っ黒になり、茶道の着物姿がますます似合わないのが悩みだ。

学生時代。ただ海外に憧れ英文科を選んだ。ゼミは中村先生の人柄で決めた。英語を話せるようになりたいとは思っていたが、海外旅行のためのバイトばかりしていた。卒論は、当時出始めたインターネットを使ってごまかした。他聞に漏れず、ゼミ仲間とのおしゃべりが一番楽しかった。

海外展開に惹かれて入った会社。学生時代に英語の勉強をしなかったことを、今一番悔やんでいる。大学時代学んだのは、「英語」という手段以前の、「コミュニケーション」の手始めだったか。友人たちの存在も年を取る毎にありがたみが増している。そして英語とも、この先も長く付き合っていくことになるだろう。

★院生時代の思い出

2008年修了 劉 斌

2008年金沢大学人間社会環境研究科を修了した劉 斌（リュウ ヒン）といいます。私にとって、院生時代に学んだ勉強以外の大切なことを紹介したいと思います。

私の専攻分野は認知言語学という比較的新しい研究分野です。この十数年、脳科学が迅速に発展するお陰で、言語に対する新しい研究は次から次へ発表されています。その中、我々の言語についての常識を覆った内容は沢山ありました。ある物事の本質を捉えるに当たって、様々な観点や角度から、如何に正しい理論を使って、的確にポイントを掴めるのが重要です。私の場合は、指導教官の中村先生のもとで、院生の二年間にずっとこのような訓練を繰り返していました。そのお陰で、溢れた情報の中から、自分にとって一番必要とする情報だけを速やかにピックアップする能力を身に付けることができました。それは、私の院生時代に一番大きな収穫であると言っても過言ではありません。

学校での学問研究だけではなく、社会人になっても、情報を正確に判別し、物事の本質や真相を見極める能力は、必ず役に立つと思います。皆さん、ぜひこのような能力を身に付けるように頑張ってください。

★卒業後の様子

2009年卒 水上 愛

金沢大学を卒業して、社会人2年目。右を向いても左を向いても仕事、仕事。ふと思い返せば、学生の頃は英語、英語の毎日で、研究室で作成した文集には「あなたにとって英語とは？」という設問に「生涯のパートナー」なんて書いた記憶が残っています。学ぶことの楽しさを知り、一時期は英語という言語ツールを生かした職業に就くことにこだわっていたあの頃が嘘のように、今では国立大学法人の一事務職員として電卓を叩き、契約書を作り、書類を捌いたかと思えば、ヘルメットをかぶって現場に向かったりとドタバタした毎日。同じ大学という環境の中で、また違った立ち位置と責任を得て、充実した日々を送っています。まれに職場で、英文の翻訳を依頼されることがあり、密かに胸が踊ってしまうことも…。不思議なもので、学問から離れた今でも、英語の文章を読み始めると文法や用法が気になり、自宅に帰って本を取り深く調べ込んでしまうこともあります。今は、まだまだ未熟で仕事中心の毎日ですが、いつかまたもう一度、英語と向き合う時間を作りたいと思っています。就職しても、生涯英語と向き合っていたい。そう思えるほど、学ぶことの楽しさを教えてくださったのは金沢大学英文科の先生方であり、共に頑張った友人たちでもあります。私のように卒業してよかった、学ぶことの楽しさを知った、そういった学生が増えるようサポートする側で、少しでも役に立てるよう努力する

のが今の私の仕事ではないか。そう思いながら、日々頑張っております。

《平成21年度卒業論文題目》

川畑 舞夕 Auster's Wonderland: Paul Auster as the Fantastist

石崎 良美 A Study of Women Characters in Oscar Wilde's Works

伊藤 萌 The Silences of Japanese-American Women: The Gender Structures of Multiple Pressures Exerted upon Each Issei and Nissei

海野 沙織 An Analysis of Character in *Pride and Prejudice*

郷田 摩耶 A Study of *The Picture of Dorian Grey*

佐藤 鷹也 How Philip Carey's Personality is Formed

谷口 茉莉衣 Demythification of Motherhood: Rereading of *Frankenstein*

中野 久美子 Vision of Dualism in Graham Greene's *The Third Man*

西部 晃弘 An Analysis of the Meaning of Peter Pan and his Surrounding Characters

樋口 美鈴 A Study of *Orlando*: Relation between Woolf and Vita

福岡 輝樹 The Haunted Detective: A Study of the Art of Reasoning of Dupin and Holmes

松本 晃輔 A Study of the Informational Structure of English Participial Construction

宮川 結実 Growth of Elizabeth in *Pride and Prejudice*

山岸 篤志 A Study of Positions of Frequency Adjuncts in Negative Sentences

山岸 悠 Realization of Gender-Equal Society

坂本 彩香 An Analysis of the Glory and Defeat of Pip

小林 隆 'I mean' as a Discourse Marker: A Re-examination of Tanaka and Ishizaki (1994) and an Analysis from Grice's Conversational Maxims

東田 麻未 A Comparative Study of Sarcasm between English and Japanese

新井 那美 An Analysis of Characters of Jane Austen's *Emma*

《平成21年度修士論文題目》

王 歆 The "Vast Wreck of Ambitious Ideals": A Study of Dorothea and Lydgate's Ambition and Marriage in George Eliot's *Middlemarch*

杉本 親祐 A Sentential Adverb in Cognitive Grammar: *Hopefully* vs *I hope*

《第7回スピーチコンテスト結果》

2009年11月21日開催

- 1位 釜田 一磨
Nationality of Japan
2位 真茅 夏恵
Continue a little longer

《2009年度会計報告》

2009年11月21日の金沢大学英文学会総会で、2009年度(2008年11月20日から2009年11月19日まで)の会計報告がなされ、承認されました。

2009年度金沢大学英文学会収支決算書
2009年11月21日

収入	2,043,632 円
支出	313,047 円
2010年度への繰越	1,730,585 円

【収入内訳】	(円)
繰越金	1237,941
KES 会費 (08 年度)	147,000
懇親会費 (08 年度)	100,000
郵便利子	691
学生会費	24,000
KES 会費 (09 年度)	534,000
合計	2043,632

【支出内訳】	(円)
厚生年金会館 (08 年度総会・懇親会) 利用料	160,000
振込手数料	525
08 年度スピーチコンテスト商品代	21,000
郵便代 (KES を国会図書館へ送付)	210
石川県文教会館施設利用料	31,900
振込手数料	525
NEWSLETTER 関係雑費	20,913
石川県文教会館施設利用料(追加分)	1,780
振込手数料	315
NEWSLETTER 郵送料	54,379
09 年度スピーチコンテスト商品代	21,000
合計	313,047

《 事務局より 》

1. ご寄付について

昨年 11 月に山田梁先生から本学会に対し 30 万円のご寄付をいただきました。他にも 30 名の方から、年会費とは別に、計 12 万 4 千円の維持費をいただきました。Newsletter や KES の発行に経費がかかる折、本当にありがとうございました。これからも変わらぬご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

2. 会費の納入について

振込用紙を同封している場合は、2010 年度の会費 2,000 円の納入をどうぞよろしくお願いいたします。年会費を納めて下さる方が年々減ってきており、900 名近い会員のうち、会費を納めて下さっている方は 150 名足らずで、依然、学会の財政は苦しいままです。特に、平成卒業組の皆様のご納入をぜひお願いいたします。お志のある方は維持費 (一口 2,000 円) もどうぞよろしくお願いいたします。

3. 総会、懇親会の出欠について

同封の葉書に 50 円切手を貼り、総会及び懇親会の出欠をご記入の上、11 月 15 日 (月) までにご投函をお願いします。その際には、ご氏名 (旧姓)、卒業 (修了) 年、ご住所、(もしあれば) メールアドレスをご記入願います。また、ご近況もぜひお書き添え下さい。

同様の内容を事務局宛に E メールでご連絡いただいても結構です。どうぞよろしくお願いいたします。

4. その他

◆昨年、たくさんの方々から近況をお寄せいただきました。一部の方には、《英文科の思い出、近況》の方に原稿をお願いし執筆して頂きましたが、今回の Newsletter に全て収まりきれなかった点、お詫び申し上げます。今後御原稿をお願いする場合がありますので、ぜひまたご近況をお聞かせいただければ有難く、どうぞよろしくお願いいたします。

◆総会プログラム・ニューズレター発送にあたり、住所 (転居先) 不明の方が増えてきております。住所変更等ありましたら、お手数ですが、事務局までご連絡願います。

【物故会員】 ＊この 1 年間に事務局にご連絡いただきました皆様です。

池本陽子様(S31 年卒)、倉田旋子様(S38 年卒)、佐久間正久様(S41 年卒)

長年会員として本学会を支えてくださり感謝申し上げますと共に、ご冥福を心よりお祈り申し上げます。

《金沢大学英文学会役員》

会長	中村芳久
副会長	谷内輝雄
事務局	堀田優子
会計	和泉邦子
編集委員代表	高田茂樹
ニューズレター編集	柳川三千代

運営委員：柿崎謙一、西多喜代子、
正木（澤田）恵美、田辺愛

在学生（院生）委員：川島嘉美、屈 莉、
小松恭代、市川泰弘、中條純子、相川
隆行、宮田愛子、山田正敏、小林隆、
松本晃輔

《 編集後記 》

今年度の NewsLetter の編集をお手伝いさせていただきました。

「会員の活躍・思い出」では、卒業生の方々から、多方面でご活躍されているご様子、また大学時代の思い出など素敵な原稿をお寄せいただきました。皆様お忙しいところ快くお受けくださり、本当にありがとうございました。ここにご紹介させていただきましたが、皆様のご活躍のご様子、本当にうれしく思います。

最近、なかなか先の見えない不安な社会情勢ですが、田中さんのように、「文学を楽しむ」「仕事を楽しむ」「人生を楽しむ」、そんな生き方、すばらしいですね。

今後も NewsLetter での情報発信、どんどんさせていただきたいと思っております。

また金大英文科の Web サイトを充実させての情報交流も予定しておりますので、そちらでも、会員の皆様と KES、会員の皆様どうしの交流を深めていただければと思います。

(柳川)

金沢大学英文学会ニューズレターNo.2

2010 年 11 月 1 日発行

〒920-1192 金沢市角間町
金沢大学人文学類英語学英米文学研究室内
金沢大学英文学会
代表者 中村 芳久

メールアドレス：

kesoffice.kanazawa@gmail.com

ホームページ：

<http://web.kanazawa-u.ac.jp/~english/index.html>